

天竜川流域のように地域ごとの水系協議会が各地で開催されるのであれば、隣接県の担当者がオブザーバーとして参加するという方法は比較的負担の少ない連携のあり方です。会議に参加して関係者の議論を直接聞くことで、会議資料や担当者間の打ち合わせ以上の情報が得られます。



図 11. 天竜川流域カワウ対策協議会において対策について話し合う関係者（静岡県提供）

### コラム① 専門家の関与と迅速な意思決定

蓄積されたモニタリングデータから、何を読み取るのか、読み取った情報からどんな管理の道筋を描き出すのが重要になります。そこで、力強い味方となるのが、カワウ管理の専門家です。経験豊富な専門家は、カワウのねぐら・コロニーへの執着度合い、ねぐら・コロニーの地形やアクセスの良さ、被害地との位置関係など無数にある情報から管理の道筋を見つけることができます。

天竜川流域（西部）カワウ対策協議会の開催に先立ち、静岡県の担当者は、専門家に現地視察を依頼し、管理の方向性についてアドバイスを受けています。このように、都道府県の担当者が、管理方針について、専門家の知恵を借りながらあらかじめ考えを整理しておくことができれば、関係者を集めた会議の場で、方向性を見失わず、より良い管理方針を検討することができます。

また、広島県のカワウ対策協議会には、科学部会が設けられています。科学部会にはカワウ管理の専門家に加え、調査を担う日本野鳥の会広島県支部と広島県内水面漁業協同組合連合会が参加しています。ここでは、調査結果や漁場のタイムリーな情報が素早く共有されるとともに、対応策はメールを活用して議論され、迅速に意志決定が行われる体制が構築されています。これにより時宜を捉えた対策の実施が可能となっています。

なお、専門家を探すには、環境省のホームページ「鳥獣保護及び管理に係る人材登録事業」( <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1.html> ) をご参考にしてください。

日常的な情報交換の仕組みが有効に機能

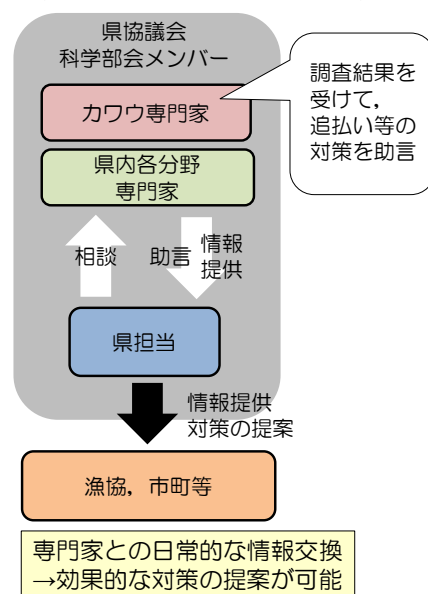


図 12. 広島県の科学部会における連絡体制の模式図（広島県提供）